

 **ODYSSEY**  
#1 PUTTER IN GOLF.™



ホワイト・ホット インサート

# 20年の 金字塔

2000-2020

W H I T E H O T I N S E R T F A C T B O O K

の一言がなければ、オデッセイの未来は、いまとは違うものになっていたのでしょうか。

「ボールのカバーと同じ素材にしてみたら？」  
口にしたのは、キャロウェイの創業者、イリー・キャロウェイ。1990年代終盤、20世紀も終わりに近づいたころのことです。

当時、オデッセイにはすでに、ストロノミックというインサートがありました。衝撃を吸収する樹脂でできていることにより、打感が柔らかくなり、フィーリングの硬い2ピースや3ピースのボールが主流となりつつあった時代にマッチして人気になっていました。また打感だけでなく、方向性にも優れていました。摩擦係数の低い金属のフェースでは、インパクト時にボールがフェース上で滑りやすいのですが、樹脂製のストロノミックは摩擦係数が高いため、

ボールが滑ることなく、思った方向に転がりやすいのです。

しかし、ストロノミックにも問題がありました。衝撃を吸収するということは、反発も少なくなるということ。プレーヤーが打ちたいと考えている距離を転がってくれないのです。

ここで出てきたのが、冒頭のイリー・キャロウェイの何気ない言葉でした。オデッセイの開発陣は、ボールのカバーに使われている、違う種類の樹脂で、インサートの開発をスタート。実際に試してみると、良い要素ばかりが浮かび上がってきました。

ボールは飛ばすことが大きな目的のものであるため、カバーの素材も反発力は充分。しかも、衝撃によりエネルギーロスが生まれる異素材と違い、同じ素材であるため、インパクトでのエネルギーダウン率も低く抑えられました。

さらに同じ樹脂同士ということで、フィーリングもより柔らかい。もちろんここに、ストロノミックでも見られた、方向性の良さも加わります。

新しいインサートは、白い素材の「ホワイト」と、“最新の”という意味の「ホット」を組み合わせ、ホワイト・ホットと名づけられました。迎えた2000年、このインサートが搭載されたWHITE HOT パターが発売されると、その打球感、打球音、インパクト時のボールスピードに世界中のゴルファーが虜となり、あっという間に市場もツアーも席卷。今日まで続くオデッセイの繁栄の礎ともなりました。

そして、さらに驚くべきは、20年経ったいまも、プロをはじめ、多くのプレーヤーに愛されつづけているところ。唯一無二。ホワイト・ホットインサートとは、まさにそんな存在と言っているのかもしれませんが。

**WHITE  
HOT**

# きっかけは、何気ない一言だった

## 2000年、ホワイト・ホット インサート誕生

1990年代終わり、オデッセイはインサートの難題に直面していました。  
打感が柔らかく、かつ、ボールの転がりも良くするにはどうすればいいのか、と。  
そのとき、ある人が発したちょっとした言葉が、すべてを解決へと導きました。  
まさに、ホワイト・ホット インサートが産声を上げた瞬間でした。

2000-2020

WHITE HOT INSERT FACT BOOK

# プロはなぜ、愛してやまないのか？

## ホワイト・ホット インサートの離れがたい魅力

誕生から20年を経たいまも、世界中の多くのツアープロに愛用されているホワイト・ホット インサート。一度、別のモデルに乗り換えても、結局戻ってきてしまう……。そんなプレーヤーも決して少なくありません。このインサートの何が、彼らを惹きつけつつけるのか。キャロウェイスタッフプレーヤー4人の言葉をお聞きください。

### KEIICHIRO FUKABORI

#### 深堀圭一郎プロ

「ボールが年々進化して、カバーや硬さが変わり、また、コンディションも日々変わるなか、いつも同じような転がりと感覚を実現してくれるのがホワイト・ホット インサートです。昔から変わらず、不思議なパターだと思いますね。別の新しいパターをテストしたり、実際に使用してみたりすることはありますが、コンディションの悪いグリーンのときや、パッティングの調子があまり良くないときに最終的に立ち返るところは、やはりホワイト・ホット インサートのパターとなっています」

### RYO ISHIKAWA

#### 石川遼プロ

「ホワイト・ホット インサートは、インサートながらしっかりめの打音がします。長めの反響する音ではなく、短くはっきりした音で、好きですね。打感も柔らかすぎず、硬すぎず、ちょうど良いフィーリングでタッチが合わせやすい。打感と音、この2点が自分の感覚にマッチしているんです」

### MOMOKO UEDA

#### 上田桃子プロ

「私がパターやインサートに求めるのは、フェースへのボールの食いつき感と、出球の直進性です。その点、Tri HOT #3 パターから現在使用しているWHITE RIZE iX #1W SH パターまで、長い期間、ホワイト・ホット インサートのパターを使ってきましたが、やっぱり打感とボールの転がりが本当にいいですね。気に入っています」

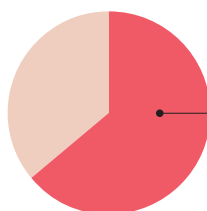
### ATOMU SHIGENAGA

#### 重永亜斗夢プロ

「打球感はしっかりしていながら、柔らかさを感じたいというのが、僕がパターやインサートに求めていることです。また、インサートがあることで、どこで打っても転がるというのもポイントです。芯をアバウトにしたいんです。削り出しパターは、シンプルでカッコ良く、憧れでもありますが、芯は狭いので、試合ではなかなか使用できないところがあります。シビアに練習をしたときには使いますが、ホワイト・ホット インサートのパターは、芯が広くてやさしい感覚があり、芯を外したとしても転がるところが気に入っています」

#### オデッセイを使用しているツアープロの ホワイト・ホット インサート使用率

\*2019年のJGTO、JLPGAにおけるオデッセイ使用プロのホワイト・ホット インサート使用率。キャロウェイゴルフ調べ



**64%**  
ホワイト・ホット インサート

2000-2020

WHITE HOT INSERT FACT BOOK

# 栄光はホワイト・ホットとともに

## 1997-2020年の主要な出来事

No.1パターメーカーのオデッセイが、キャロウェイと一緒に歩みはじめたのは、1997年。そして、その名をさらに高い位置へと押し上げたのが、2000年に登場したホワイト・ホット インサートとWHITE HOT パターでした。以来20年、ツアーで数々の勝利を挙げ、多くの人気モデルも輩出。オデッセイとホワイト・ホット インサートが描いた、これまでの足跡を振り返ってみましょう。

年	全体 (■コーポレート / ●プロダクト)	ツアー
1997	■キャロウェイゴルフ・カンパニーが、ロシアで人気のNo.1パターメーカー、オデッセイ・スポーツ社買収	
2000	■キャロウェイゴルフ株式会社発足 ●ボールと同じウレタンインサートを搭載した、WHITE HOT パター発売(2月)	●アーノルド・パーマーと契約(6月)
2001	●ホワイト・ホット インサートに削り出し軟鉄+タングステンウェイトのTri HOT パター発売(1月) ■創業者イリー・キャロウェイ逝去(7月、享年82)	●アニカ・ソレンスタム「Standard Resister Ping トーナメント」(米国アリゾナ州)で女子ゴルファー初の最少スコア59で優勝(3月) ●アニカ・ソレンスタム「クラフト・ナビスコ選手権」優勝(3月) ●ボール・ローリーがWHITE HOT 2-BALL パター発売前に欧州男子ツアー「アルフレッドダンヒル・リンクス選手権」で優勝(10月) ●アニカ・ソレンスタムがWHITE HOT 2-BALL パターに切り替えて日本で2連勝(「シスコ・マッチプレー」(10月)、「ミズノクラシック」(11月)) ●アニカ・ソレンスタム LPGA賞金女王
2002	●WHITE HOT 2-BALL パター発売(1月)	●アニカ・ソレンスタム「クラフト・ナビスコ選手権」優勝(3月) ●アニカ・ソレンスタム「ミズノクラシック」2連勝(WHITE HOT 2-BALL パター)(11月) ●アニカ・ソレンスタム 驚異のシーズン11勝で、2年連続LPGA賞金女王(11月) ●WHITE HOT #5 パター 国内男子賞金王に貢献(12月)
2003	●WHITE HOT 2-BALL BLADE パター発売(9月)	●アニカ・ソレンスタム PGAツアー「バンク・オブ・アメリカ・コロシアム」に女子選手として56年ぶりに出場(WHITE HOT 2-BALL CS パター)(5月) ●アニカ・ソレンスタム「マクドナルド全米女子プロゴルフ選手権」優勝(6月) ●アニカ・ソレンスタム「全英女子オープン」優勝で、生涯グランドスラムを達成(WHITE HOT 2-BALL BLADE パター)(8月) ●アニカ・ソレンスタム 3年連続6度目のLPGA賞金女王(WHITE HOT 2-BALL BLADE パター)
2004	●ホワイト・スチール パター発売(9月)	●アーノルド・パーマー 最後の「マスターズ」に出場(WHITE HOT 2-BALL パター)(4月) ●フィル・ミケルソンと契約(9月) ●アニカ・ソレンスタム「マクドナルド全米女子プロゴルフ選手権」優勝(6月) ●アニカ・ソレンスタム 4年連続LPGA賞金女王



## 2000-2020

## 2005

- アニカ・ソレンスタム「クラフト・ナビスコ選手権」優勝(3月)
- マイケル・キャンベル「全米オープン」でメジャー初優勝(WHITE HOT #6 パター)(6月)
- アニカ・ソレンスタム「マクドナルド全米女子プロゴルフ選手権」優勝(6月)
- フィル・ミケルソン「全米プロ選手権」優勝(8月)
- アニカ・ソレンスタム「ミズノクラシック」女子初の大会5連覇(WHITE HOT 2-BALL BLADE パター)(11月)
- アニカ・ソレンスタム 5年連続LPGA賞金女王(11月)

## 2006

- ホワイト・スチール SRT Tri-ball パター発売(2月)
- ホワイト・ホット XG パター発売(ホワイト・ホット XGインサート)(5月)



- フィル・ミケルソン 第70回「マスターズ」優勝(WHITE HOT XG プロトタイプ)(4月)
- アニカ・ソレンスタム「全米女子オープン」10年ぶりの優勝(WHITE HOT 2-BALL BLADE パター)(7月)

## 2007

- キャロウェイゴルフ創業25周年

- モーガン・ブレッセル 史上最年少18歳で「クラフト・ナビスコ選手権」優勝(4月)
- 上田桃子 シーズン5度の優勝で、史上最年少(21歳156日)の賞金女王(11月)

## 2008

- WHITE HOT TOUR パター発売(ホワイト・ホット XG ツアー インサート)(4月)

- 上田桃子 米国LPGA参戦
- アニカ・ソレンスタム引退

## 2009

- オデッセイで初の日本専用モデル ツアー・プロトタイプインサート搭載のブラック・シリーズ iX パター発売(4月)
- オデッセイで初の日本専用モデル WHITE HOT TOUR iX パター発売(4月)
- 「オデッセイ パットラボ」オープン(東京白金台)(7月)
- WHITE ICE パター発売(ホワイト・アイス インサート)(11月)



- 石川遼(当時はパターのみの使用) 最年少賞金王を獲得(18歳80日)

## 2010

- 米国LPGA開幕戦「ホンダ PTT LPGA タイランド」でWHITE HOT XG Teron パターが勝利(2月)
- フィル・ミケルソン「マスターズ」優勝(4月)

## 2011

- 上田桃子「ミズノクラシック」優勝で、4年ぶり2度目の米国LPGA勝利(Tri HOT #3 パター)
- キャロウェイ・スタッフプレーヤー ベ・サンムン 賞金王(ODYSSEY Tour MILLED パター)



## 2012

- #9HTもラインアップした、PROTOTYPE iX パター発売(5月)
- WHITE RIZE iX パター発売(10月)
- キャロウェイゴルフ創業30周年



# 2000-2020

年	全体(■コーポレート／●プロダクト)	ツアー	
2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WHITE HOT PRO パター発売(3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川遼と契約、PGAツアー参戦(1月)</li> <li>●フィル・ミケルソン「全英オープン」優勝(7月)(VERSA WHITE #9 パター)</li> <li>●テレサ・ルー 初優勝(ODYSSEY MILLED #7 パター)</li> </ul>	
2014		<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内メジャー「日本オープンゴルフ選手権競技」でMILLED COLLECTION #5 プロトタイプ パターが勝利</li> </ul>	
2015	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ODYSSEY WORKS パター発売(フュージョン RX インサート)(1月)</li> <li>●ヘッドにサウンドチャンバーを搭載した、ミルド・コレクション SX パター発売(SX インサート)(9月)</li> <li>●WHITE HOT RX パター発売(ホワイト・ホット RX インサート)(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川遼 ゴルフ「日本シリーズJTカップ」優勝(WHITE HOT #5 CS パター)(11月)</li> </ul>	
2016	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WHITE HOT PRO 2.0 パター発売(2月)</li> <li>●WHITE RIZE iX #1SH パター復刻版発売(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WHITE RIZE iX #1SH パターが賞金女王獲得に貢献(11月)</li> </ul>	
2017	<ul style="list-style-type: none"> <li>●O- WORKS パター発売(マイクロヒンジ・インサート)(2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上田桃子 3シーズンぶりの優勝(VERSA 2-BALL パター)</li> </ul>	
2018	<ul style="list-style-type: none"> <li>●EXO パター発売(ホワイト・ホット マイクロヒンジ・インサート)(7月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重永亜斗夢 開幕戦で初優勝(MILLED COLLECTION TX DYPE モデル #2\$ パター)</li> <li>●河本結 ステップ・アップ・ツアー賞金女王(O-WORKS RED V-LINE FANG CH パター)</li> </ul>	
2019	<ul style="list-style-type: none"> <li>●STROKE LAB ブラックシリーズ パター発売(マイクロヒンジ★インサート)(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河本結 初優勝(ODYSSEY TOULON ATLANTA パター)(3月)</li> <li>●キャロウェイ・スタッフプレーヤー イ・ジョンウン6「全米女子オープン」で優勝(O-WORKS 2-BALL パター)(6月)</li> <li>●石川遼「日本プロゴルフ選手権大会」優勝(7月)</li> <li>●柏原明日架 初優勝(O-WORKS 2-BALL パター)(9月)</li> <li>●石川遼「ゴルフ日本シリーズJTカップ」優勝(11月)</li> </ul>	
2020	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WHITE HOT OG パター発売(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河本結 米国LPGA参戦</li> </ul>	

## 2000-2020





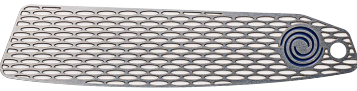




# ベンチマークはいつも、ホワイト・ホット

## オデッセイが追求しつづけるインサートの究極

2000年以降も、オデッセイは多くの優れたインサート、テクノロジーをつくり出してきました。

それが可能だったのは、開発するうえでの最適な基準をすでに手にしていたからかもしれません。

たとえば、「ホワイト・ホットの打感に並ぶものを」。たとえば、「ホワイト・ホットを超えるボールの転がりを実現したい」といった具合に。進化の歴史を、年代順に見ていきましょう。

<b>2000</b>		<b>ホワイト・ホット</b> WHITE HOT	<b>ストロノミック (1996年)</b> 2ピース、3ピースなどの、糸巻きよりも硬いボールの登場に対応すべく開発。樹脂で製作して打感を柔らかくし、音も抑えた
<b>2004</b>		<b>ホワイト・スチール</b> DFXよりも硬いものを、という要望に応え、ホワイト・ホットの表面真ん中にスチールの板材を設置	<b>DFX (2003年)</b> ホワイト・ホット以上の硬さや音を求めるプレーヤー向けに製作。ストロノミックの素材を使用し、製法を変えて仕上げた
<b>2006</b>		<b>ホワイト・ホット XG</b> 内側にエラストマー、外側をウレタンという2層構造を導入。表面中央部分にはテクスチャーも初採用	<b>XG ディヴァイン (2007年)</b> ホワイト・ホット XGを、女性向けとして柔らかめに。ディスタンス系の硬めのボールを使うことが多い女性の傾向に対応
<b>2009</b>		<b>ホワイト・アイス</b> ツアー・プロトタイプ インサートをグローバルモデルに装着する際に、名前とスウォールの色を変更	<b>ホワイト・ホット XG ツアー (2008年)</b> ホワイト・ホット XGと同じ作りで、少し硬度を高めたインサート。ソフトなツアーボールに対応すべく登場した
<b>2015</b>		<b>フュージョン RX*</b> メタル-Xを進化させ、ウレタン上に金網状の極薄ステンレスプレートを設置。より柔らかい感触に	<b>ツアー・プロトタイプ (2009年)</b> ホワイト・アイスの前となったインサート。当初は日本のツアー用で、評価が高かったため、日本モデルのパターにも採用
<b>2017</b>		<b>ホワイト・ホット RX</b> メタル-Xの良さを生かしながら、ソフトさを追求。素材は樹脂のみで、表面にはテクスチャーを施した	<b>クリムゾン・ストロノミック (2009年)</b> ストロノミックとほぼ同じ製法で、リーズナブルな価格に設定。主にディスタンス系の硬めのボールを使うゴルファー向け
<b>2018</b>		<b>マイクロヒンジ</b> ホワイト・ホットに転がりの良さを加えようと開発したもの。表面のヒンジがボールに順回転を与える	<b>ホワイト・ホット XG 2.0 (2010年)</b> ホワイト・ホット XGの基本構造は踏襲しつつ、中央のテクスチャーやドットは採用せず、リーズナブルな価格に設定
<b>2019</b>		<b>ホワイト・ホット マイクロヒンジ</b> マイクロヒンジを、よりホワイト・ホットの感覚に近づけた。素材などを見直し、ヒンジの面積も増加	<b>ディヴァイン (2010年)</b> ホワイト・ホット XG 2.0を、女性ゴルファー向けにしたインサート。XG ディヴァイン同様、柔らかめの打感を目指した
		<b>マイクロヒンジ★インサート</b> ホワイト・ホット マイクロヒンジが進化。しっかりした打感で、音は高く、初速も出るようにされた	<b>ダマスカス (2011年)</b> 希少な金属で、硬めのフィーリングのインサートを製作。裏側に樹脂のある2層構造にし、硬さのなかに柔らかさも出した
			<b>メタル-X (2012年)</b> ウレタンの上に、楕円形のテクスチャーが入ったアルミ素材を重ねたもの。テクスチャーでインパクト時のスリッスを軽減
			<b>ホワイト・ダマスカス iX (2014年)</b> ダマスカスにメタル-Xの良さを加えたもの。ダマスカスのプレートの中央部分に、楕円形のテクスチャーを彫り込んだ
			<b>SX (2015年)</b> より良い打球音を求める声に応じて開発。素材はステンレスで、音を反響させるべく、裏側の周辺4カ所を凹ませている
			<b>RSX (2016年)</b> より良い打球音を追求したSXに、インパクト時のスリッパ軽減効果を加えるべく、表面に楕円形のテクスチャーを施した

\*商標“FUSION”(登録第2,581,416号)は(株)ジャバーナの所有する登録商標です

## 2000-2020

# ホワイト・ホットから続くNo.1の軌跡

## 2000-2019年、世界のツアーにおけるオデッセイパター使用率

オデッセイパターといえば、ツアーでの圧倒的な使用率が話題となりますが、この輝ける歴史が始まったのも、ホワイト・ホット インサートとWHITE HOT パターが生まれた2000年からでした。20年間、オデッセイのNo.1の地位は不動のものとなっています。

### “20年連続世界のツアーで使用率No.1”

年	世界のメジャーツアー合計使用率		国内男子ツアー使用率		国内女子ツアー使用率	
2000	31.3%	#1	—	—	—	—
2001	32.9%	#1	42.7%	—	—	—
2002	35.6%	#1	50.0%	—	—	—
2003	36.3%	#1	46.2%	—	—	—
2004	34.5%	#1	54.4%	#1	—	—
2005	33.7%	#1	61.5%	#1	—	—
2006	33.0%	#1	68.5%	#1	—	—
2007	34.9%	#1	68.9%	#1	—	—
2008	32.9%	#1	61.1%	#1	—	—
2009	34.1%	#1	64.9%	#1	—	—
2010	35.1%	#1	66.2%	#1	—	—
2011	36.2%	#1	64.7%	#1	—	—
2012	33.5%	#1	54.3%	#1	—	—
2013	37.0%	#1	55.1%	#1	70.6%	#1
2014	41.8%	#1	63.1%	#1	69.8%	#1
2015	42.3%	#1	59.0%	#1	65.3%	#1
2016	41.2%	#1	56.2%	#1	65.8%	#1
2017	41.7%	#1	57.7%	#1	68.3%	#1
2018	41.7%	#1	59.2%	#1	63.8%	#1
2019	44.4%	#1	59.7%	#1	56.0%	#1

\*世界のメジャーツアー：2000年(PGA, SPGA, LPGA, Buy.Com, EPGA)  
 2001年～2002年(PGA, SPGA, LPGA, Buy.Com, EPGA, JGTO)  
 2003年～2018年(PGA, Champions, LPGA, Nationwide, EPGA, JGTO)  
 2019年(PGA, Champions, LPGA, Nationwide, EPGA, JGTO, JLPGA)

\*Source:2000～2002年 Darrell Survey and Sports Marketing Survey / 2003年～2019年 Darrell Survey

\*国内男子ツアー 2003年以前ならびに国内女子ツアー 2012年以前は当社に公式の記録がないため、記載していません。

2000-2020

WHITE HOT INSERT FACT BOOK